

# 自治体間連携による住居荒廃問題への包括的支援体制の強化

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：「住居荒廃」問題への包括的支援体制の強化—自治体間の連携に着目して—

研究代表者：社会福祉学部 高木善史

課題提案者：矢巾町

研究メンバー：菅野道生（淑徳大学 教授）、齋藤昭彦（社会福祉学部）、堀内聡（比治山大学 教授）、盛岡市、盛岡市社会福祉協議会、滝沢市

技術キーワード：住居荒廃・ごみ屋敷・地域共生社会

## ▼研究の概要（背景・目標）

全国的にいわれる「ごみ屋敷」と呼ばれる住居荒廃問題が増加し、悪臭や害虫の発生、火災の危険など地域の衛生・安全に深刻な影響を与えている。高齢者の孤立やセルフネグレクト、認知症による判断力低下など複合的な生活課題が背景にあり、単に清掃やごみ撤去を行うだけでは根本的解決に至らず再発する恐れが高い。しかし、この問題に直接対応する法律は存在せず、行政が当事者の同意なく強制的に介入することは難しい。また本人が問題を認識せず支援を拒否するケースも多く、問題が長期化・深刻化しがちである。そのため、福祉部門と環境衛生部門が連携した包括的支援体制の構築や、行政と社会福祉協議会等の協働、地域ぐるみの早期発見・継続的支援の取り組みが求められている。しかし、支援上の課題や事例のノウハウを自治体間で共有する仕組みはこれまで存在せず、自治体間連携の不足が課題となっている。以上を踏まえ、本研究では自治体間でノウハウ共有・連携を促進し、矢巾町における「住居荒廃」世帯への包括的支援体制を強化することを目的とした。

## ▼研究の内容（方法・経過）

本研究では、矢巾町・盛岡市・滝沢市の担当職員を対象にヒアリング調査を実施した。調査は令和6年6月～8月に行い、各自治体における住居荒廃ケースの実態、発見から対応に至る経緯、庁内外の連携状況、直面している課題などについて聞き取りを行った。また架空の事例（ピネット）を提示し、地域住民に期待する役割や対応策についても意見を収集した。得られた情報は逐語録を作成して分析し、自治体ごとに現状と課題、特徴を検証するとともに、自治体間で共通点・相違点を比較分析して共通の課題や有効な方策を抽出した。さらに令和6年12月2日には矢巾町・盛岡市・滝沢市の3自治体合同の連携会議を開催し、グループワークを通じて相互の現状と課題、庁内外の連携のあり方や支援策について意見交換・検討を行い、自治体間の知見共有を図った。

## ▼研究の成果（結論・考察）

### （1）住居荒廃問題の現状と相談経路

自治体において住居荒廃ケースの発見・相談は地域住民や民生委員からの通報が中心であることが共通していた。また自治会や地域包括支援センター、社会福祉協議会等が窓口となる場合も多い。日常的な見守りと情報提供の重要性が改めて認識された。

### （2）介入や支援における工夫と課題

当事者の支援拒否等により、初期介入や関係構築が困難な共通課題がある。そこで、健康支援や食料支援など福祉的アプローチで徐々に信頼関係を築き、福祉サービス開始時に片付けも並行する工夫を行い、時間をかけ継続支援に繋げている。また、清掃作業時の粉じん・害虫曝露や床面不明による転倒などスタッフの安全リスクも高く、防護具や安全マニュアルの整備も課題に挙げられた。

### （3）庁内外の連携の必要性と現状

対応には福祉・環境部門や地域包括支援センター、社会福祉協議会など複数機関の協働が不可欠だが、現状ではケースごとの対応に留まり、組織的な情報共有や連携体制が不十分であることが示唆された。

### （4）住居荒廃対応の共通課題

住居荒廃の定義や介入基準が明確でなく統一ガイドラインがないため、対応にばらつきがある。清掃だけでは問題が再発しやすく、継続的な支援や見守りが必要と認識された。また、多頭飼育に伴う衛生・悪臭問題も共通課題である。さらに、住民側の相談窓口の周知不足も指摘され、地域への啓発と窓口の明確化が重要である。

### （5）今後の取り組みへの示唆

調査結果を踏まえ、自治体間連携の強化とガイドライン等策定が必要である。また、事例検討会の定期開催や地域啓発の推進も重要である。これらによって、住居荒廃問題の早期発見・解決が期待される。

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 矢巾町の事例検討会を継続し、他自治体にも参加を呼びかけて自治体間のネットワーク強化と知見共有を今後も図る。

2. 自治会・民生委員など地域住民への啓発や研修により、住居荒廃の兆候や相談先を周知して地域ネットワークの感度を高める。これにより問題の深刻化を防ぐとともに、「困ったらすぐ支援につなぐ」という認識を醸成する。

【謝辞】本研究にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。